

とともに延長保育など特別保育事業の拡充等、子育て支援の基盤整備に取り組みでいきます。今後、総合的な取組が進むよう推進体制の強化などを図り、子育てを支えあう地域社会の実現を目指してまいります。

●その他の質問事項  
・負の遺産の検証について  
他

### 三重県の平和政策・平和教育について

地域から平和政策を

中村 進一議員  
(新政みえ/伊勢市選出)

### 問

三重県史によりますと、かつての大戦中、宗教団体や当時の労働組合、政党をはじめとする団体や国民が、基本的人権の制限を受けたと記録されており、そういった事実を思うと大変心配であります。そうならないために、地域から平和の声をあげていくことが必要と考えます。

戦後六十年という年月は、心配したとおり、戦争の悲惨さや二度と戦争をしないという誓いなど、大変な勢いで風化を進めました。

知事は、毎年、戦没者追悼式の式辞で、戦争や空襲で家族を亡くされた遺族の方々に暖かい追悼の言葉と決意を述べておられます。けれども、もう少し政策に反映すべきではないかと思えます。

そこで、戦後六十年に対する思いと、戦後六十周年記念事業についてのどのような取組を考えているのか、知事の所見をお聞きします。

### 答

昨今の国際情勢がますます緊張の度合いを増していくなか、今こそ平和の尊さに対する認識

を深め、世界の恒久平和を確立していくことが、ますます重要なときではないかと考えています。この戦後六十年を機会として、戦後の日本を振り返りながら、平和の意義について県民の皆さんとともに考えていきたいと思えます。

県としては、戦争体験を風化させない取組や、平和及び戦後六十年関連事業に取り組んでいる市町村に対し支援を行い、広く県民の皆さんに平和について考える機会を提供していきたいと考えています。



●その他の質問事項  
・三重の食料は大丈夫か  
他

### 三重県における産業集積の促進について

特区制度を活用した産業集積を

水谷 隆議員  
(自民・無所属・公明議員団/旧員弁選出)

### 問

長期にわたる低迷を続けてきた国内の経済状況は、緩やかな回復局面にあると思われれます。

このような経済情勢のなか、種々の工商政策が進められており、景気の回復局面こそ、産業集積を進めるチャンスがあると思えます。

本県の北勢地域では、構造改革特区制度を活用した燃料電池実証試験などの取組が始められ、今後の展開に期待をしております。ここでは、燃料電池関連分野を核とした産業集積が進められており、それらが具体的な形になるまでには少し時間がかかるのかもしれませんが。

そこで、今までの取組と、これからどのように進めていくのか、知事の所見をお聞きします。



燃料電池実証試験の状況

### 答

北勢地域の産業ポテンシャルを活かせる「燃料電池・水素エネルギー関連産業」を、二十一世紀のリーディング産業として育成していきたいと考えています。

これまで、全国に先駆けて、構造改革特区制度を活用した燃料電池実証試験など、産業界や高等教育機関と連携して進めてきたところです。また、本県では、三重大学と協働で、新エネルギー・産業技

術総合開発機構に、「燃料電池の耐久性向上のための課題解明」をテーマとする研究開発を提案し、自治体では、初めて採択されました。

これを契機に、燃料電池関連技術に関する研究開発をさらに進め、研究開発拠点を図ってまいります。

●その他の質問事項  
・環境保全活動について  
他

### 中小企業の金融政策について

企業ニーズに適応した金融政策を

森本 哲生議員  
(新政みえ/旧松阪市・旧飯南郡選出)

### 問

県内企業の中国進出への支援もさることながら、県内で頑張っている企業への支援も大変重要なことでもあります。中小企業に対する金融支援のなかで、預託から利子補給制度に変更があったものの、この二三年の実績は計画に対し、六十%前後となっており、従来どおりの施策に不安を感じています。

平成十六年度の中部CLOの融資実績をみてみますと、低金利がすべてではないようですが、例えば、ある一定の期間を限定してでも、もっと大胆に利子補給を行うか、また、新価値創造をめざし新たな事業へ挑戦する企業に対しては今の補助制度を拡大するなど、従来どおりの施策を検討すべき時期ではないかと考えます。そこで、今後の施策について所見をお聞きします。

### 答

中小企業は、本県経済の中心で、大きな役割を果たしていると思いますが、どうしても資金調達が弱いことから、県の制度融資により、その円滑化を図っています。平成十六年